

- 個人の経験を組織の知識に、組織の知識を現場の安全資産として活用 -

安全管理業務における危険予知の高度化・現場改善

組織内に大量に蓄積されたドキュメントおよび一般公開されているドキュメント群から事例に沿った情報を抽出し、最適なナレッジとして、さらに、網羅性が高いナレッジを提供する仕組みを構築します。安全管理者一人ひとりの判断の質と量を最大限支援します。

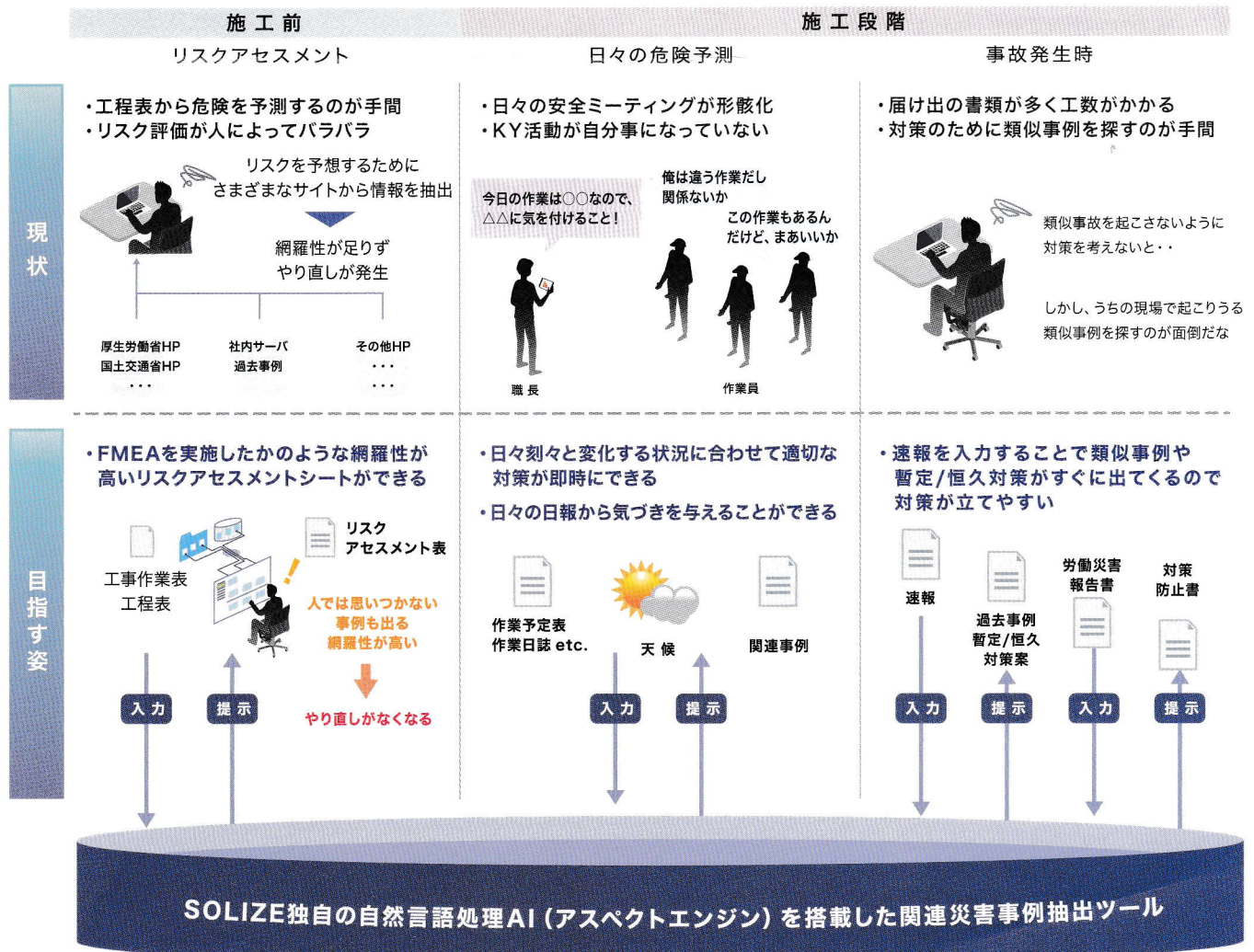
安全管理の現場が抱える課題

- 労働災害がもたらす損失は甚大であるため、未然防止が重要
- 工事現場や大規模建造物の工場においては、「安全はすべてに優先する」などのスローガンを掲げて作業するが、慣れなどで形骸化しやすい
- 作業内容が日々刻々と変化、単品受注生産、作業員の入退場が激しいなどから、日々徹底した安全管理が必要



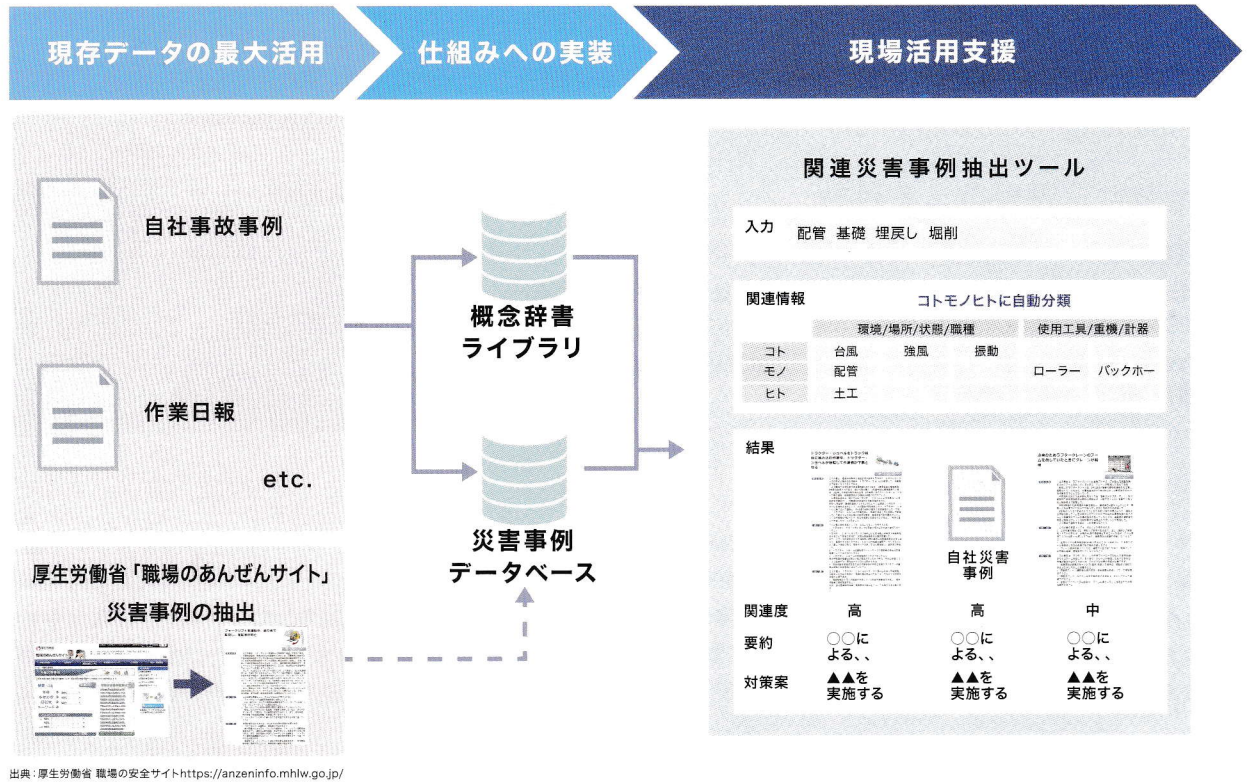
現状と目指す姿

安全対策は着工前から始まっています。作業内容からリスクを洗い出していくために自社のリスクアセスメントシートや過去事例、厚生労働省のサイトから情報を取得し、網羅的に対策を検討します。施工中は現場での安全ミーティングやKY活動を実施していますが、人や天候によってリスクが変わるため、都度適切な対策が必要です。万が一事故が発生したときは原因調査から対策を実施するために、類似の情報検索が必要です。自然言語処理AIを搭載した仕組みを用いて、膨大な文書データから、作業内容と類似の状況を検索し、関連するリスクや事故事例を提示、安全管理業務をスマートに、作業者に気づきを与えられるようにします。



目指す姿実現のアプローチ

自社の災害事例および厚生労働省労災データをもとに、SOLIZE独自のアスペクトエンジンによる関連情報検索ができます。



関連災害事例抽出ツール活用イメージ（例：日々の危険予測における支援）

日々の作業日誌や作業工程表を入力すると関連する災害事例が抽出され、事例を根拠として危険や安全対策が立てられます。

